

令和2年度道・絆プロジェクト 三陸復興国立公園協会 観光PRブース出展

1. 目的

当協会は、三陸復興国立公園の利用促進と観光客の誘致拡大を目的に活動している。

本事業は、三陸沿岸道路の全線開通を見据え、沿線の県(青森県、岩手県、宮城県)からの個人旅行者を誘致するため、ショッピングセンター等において観光PRを行うものである。

そこで、三陸沿岸道路の全線開通によってつながる三陸復興国立公園内の景勝地や特産品について紹介し、全線開通後は三陸沿岸道路を利用し、足を運んでいたできるよう広報活動を行う。

また、旅行意欲や嗜好に関する調査を行い、今後の誘客戦略策定に係るデータ収集も行う。

2. 実施体制

〈主たる実施団体〉

■三陸復興国立公園協会(事務局:岩手県宮古市)

〈協力〉(会員)

■八戸市 ■階上町 ■久慈市 ■野田村 ■普代村 ■田野畑村 ■岩泉町 ■宮古市 ■山田町 ■大槌町 ■釜石市 ■大船渡市 ■陸前高田市
■気仙沼市 ■南三陸町 ■女川町 ■石巻市 ■三陸鉄道(株) ■岩手県北自動車(株)

3. 実施内容

(1)三陸復興国立公園協会観光PRブース出展(八戸会場)

- ・実施日 令和2年10月31日(土)、11月1日(日) 午前10:00～午後5:00
- ・場所 八食センター 厨studium(青森県八戸市)
- ・実施内容 アンケート抽選会を行い、各市町村の特産品とパンフレットを配布。
※景勝地及び道・絆プロジェクトロゴマーク入りビニール袋に入れ配布。
三陸沿岸道路に係るパネルの展示
三陸鉄道株式会社による三鉄グッズ等の物産販売会の開催。

・参加者数 504人(アンケート回収数)

(2)三陸復興国立公園協会観光PRブース出展(仙台会場)

- ・実施日 令和2年11月14日(土) 午前10:00～午後5:00
11月15日(日) 午前10:00～午後3:00
- ・場所 イオンタウン仙台泉大沢 1Fセントラルコート(宮城県仙台市)
- ・実施内容 アンケート抽選会を行い、各市町村の特産品とパンフレットを配布。
※景勝地及び道・絆プロジェクトロゴマーク入りビニール袋に入れ配布。
三陸沿岸道路に係るパネルの展示
三陸鉄道株式会社による三鉄グッズ等の物産販売会の開催。
かけあしの会による各市町村の特産品の物産販売会の開催。

・参加者数 553人(アンケート回収数)

4. 成果品、周知方法など

道・絆プロジェクト支援金を活用し、三陸復興国立公園内市町村の景勝地及び道・絆プロジェクトロゴマーク入りのビニール袋を作成した。また、イベントチラシを作成し、会場内での配布、掲示及び八食センター、イオンタウン仙台泉大沢のホームページ上に掲載し、イベント誘客を行った。



ビニール袋



八戸イベントチラシ



仙台イベントチラシ

5. 実施状況(写真)



出展ブース(八戸会場)



国立公園について説明を聞く来場者
(八戸会場)



抽選会に並ぶ来場者(八戸会場)



着ぐるみを使用したPR(八戸会場)



アンケート抽選会の景品(仙台会場)



三陸鉄道(株)による物販ブース
(仙台会場)



三沿道について説明を聞く来場者
(仙台会場)



着ぐるみを使用したPR(仙台会場)

6. 総評

今回のPRブース出展事業は初めての開催であったが、両会場ともにアンケート抽選会の効果もあり多くの方に足を運んでいただけた。

八戸会場では来場者の約4割が青森県外から個人旅行または団体旅行で訪れた方々であり、三陸復興国立公園のPRと併せ、三陸沿岸道路の開通・復興の状況についてPRを行うことができた。

仙台会場では来場者の約9割が仙台市近郊からの買い物客であり、家族連れ等が多く見受けられ、自家用車での三陸沿岸道路を利用した周遊観光のPRを行うことができた。

アンケートでは来年度全線開通予定の三陸沿岸道路について、関心を持っている方が非常に多く、「全線開通後にぜひ利用したい」といった声が多く聞かれた。一方で三陸復興国立公園について、八戸会場では半数、仙台会場では約7割弱が「知らない」と回答しており、各市町村の景勝地である「浄土ヶ浜」、「龍泉洞」といった名称は知っているが、「三陸復興国立公園」の名称の認知度が低いと感じられる結果となった。

今後、三陸沿岸道路等の復興道路を利用した周遊観光をPRしていく上で、「三陸復興国立公園」の認知度の向上、観光客誘致のために今回のようなPRイベントのほか、インターネット広告や情報誌、テレビ・ラジオの情報番組等による、より一層のPR活動が必要である。